

フェーズ別 GX 実践ストーリー

知る



経営層の気づき

顧客からの開示要請に対し、当初は経営層の理解が得られず全社的な取組に至っていなかった。しかし、取引解消リスクの顕在化を機に GX 経営を決定。全社員へのリテラシー教育とロール別スキル習得を支援した結果、GX 製品の開発・販売に成功。認知度と売上比率が向上し、業績アップを実現した。

測る



はじめの一步

排出量算定の必要性は感じつつも、専門用語の壁により着手が遅れていた。そこで GX スキル標準を活用、自社に必要なスキルを特定し、GX スキル標準レベル2に達するよう支援した。担当者が知識を習得したことで、スムーズに算定を開始でき、具体的な削減目標に向けた一歩を踏み出した。

減らす



部署連携で前進

算定はしたが、具体的な削減方法や優先順位が不明確で計画が形骸化。GX スキル標準に基づき、適した人材を定め、削減に必要なスキルの習得を支援。実効性の高いロードマップを策定し、着実な削減へと繋げた。

測る・減らす



属人化の脱却

担当者に業務が集中し、退職によって GX 推進に支障が出ていた。GX スキル標準を用いて各業務に必要なスキルを整理。退職者のスキルを新担当者が習得し、分担できるよう育成計画を立てた。個人の経験に頼っていた業務が標準化され、組織として安定して継続できる体制を構築できた。

減らす・開示



補助金活用+PR

削減実行の費用確保に苦慮していたが、社員が GX スキルを習得した結果、設備投資に関する GX 補助金の要件を満たしていることが判明。申請し、採択された。コストと排出量の両方を削減した実績を公表したところ、メディアなどから反響があり、想定以上の宣伝効果が得られた。

※各ストーリーは、GX 推進の一例を示すモデルケースとして構成したものであり、特定の企業・事例を示すものではありません。

GX は、まず自社でできることから一歩ずつ取り組み、実践の輪を少しずつ広げていくことが重要です。GX スキル標準やこのガイドブックを活用しながら、GX を進めていきましょう。

本成果物は WG リーダー・メンバー以外の企業も自由にご利用いただけますが、ご利用に当たっては以下の通り出所を明示ください
出所)GX リーグ GX 人材市場創造 WG「人材(役割)から始める・進める GX ガイドブック」(2026年3月)

【理解を深めるための参考資料】

本ガイドブックの構成「知る・測る・減らす」は、環境省が推奨する脱炭素経営のステップに基づいています。より詳細な実務や具体策については、以下の資料を併せてご活用ください。

・GX スキル標準

https://gx-league.go.jp/aboutgxleague/document/gxss_202603.pdf

・グリーン・バリューチェーンプラットフォーム(環境省)

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/index.html

・中小規模事業者向けの脱炭素経営導入ハンドブック

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/guide.html



制作：2025年度 GX リーグ GX 人材市場創造 WG

人材(役割)からはじめる・進める

GX ガイドブック

～脱炭素という新たな経営課題へ、一歩目を踏み出した方への実践ガイド～

自社の GX 推進の”今”と”次にやるべきこと”が見えてくるガイドブックです。将来の「成長」に向けた土台として、「知る・測る・減らす・開示」の4フェーズごとに人材の視点から整理しています。まずは着実に土台を築き脱炭素社会への以降を目指しましょう。必要に応じて、2025年5月公表の「GX スキル標準 (GXSS)」を参照しながら活用してください。



いま自社でどこまでできているか、チェックリストで確認してみましょう。

項目は、基本的な内容から順に並んでおり、2~3ページの「関連する役割(人材)」の順番とも対応しています。未達成の項目があれば、GX スキル標準の該当ページを参考にしながら、次のステップへ進んでいきましょう。

本ガイドブックの
スコープ

成長する

削減を強みに変え、人材と技術を武器に、企業価値を高めるステップ

脱炭素社会に移行する

自社の成長が社会の脱炭素を加速させる、好循環の実現を目指します

知る

- GX に関する法規制を把握している
- Scope1 ~ 3 の目標や業界ルールを理解している
- GHG 削減に関する主要枠組みを理解している (GHG プロトコル、ISSB/SSBJ 等)
- 自社事業に関わる GX のリスクと機会を理解している
- 入札や取引に影響する GX 対応と法規制に備えている
- 各国の動向や業界の先行事例を把握している

測る

- GHG 算定に関する主要ガイドラインを理解している
- 目的に応じた GHG 算定方法・優先度を設定している
- 自社の GHG 排出の流れを把握している
- 自社サービスの GX 貢献度を定量化している
- 社内外と連携し GHG 算定体制を構築している
- GHG 排出量を分析し、社内外に報告している

減らす

- 自社に合った GHG 削減施策を立案・実行している
- 政府の補助施策等を活用し、削減計画を関係部署と進めている
- 関連法規や SBT 等の枠組みに対応している
- インターナルカーボンプライシングを調達方針に反映している

開示

- GX 情報開示の法令・ガイドラインに沿って対応している
- 投資家等との対話を通じて GX 戦略を発信している
- 開示の信頼性を高める体制を構築している

GX は、「知る」「測る」「減らす」「開示」を土台として、「企業の成長」へと繋げていくサイクルです。それぞれのフェーズを理解し、自社に不足している人材やスキルを見極め、一歩ずつ取り組みを始め、土台を築いていきましょう。

会社の規模によっては、開示が法的に必須になっている場合もあります。開示項目を理解し、GXの業務の流れを知り、算定・削減のうえ結果を開示しましょう。また、GXのサイクルを少しずつ大きくしていきましょう。

※ページ番号は、GXリーグGX人材市場創造WG「GXスキル標準(GXSS)」(2025年5月)の参照先ページです。
 ※ISSB・SSBJ基準 有価証券報告書などで求められる、非財務情報の開示基準。
 ※SBT(SBTi) パリ協定などの国際的な合意に沿った、科学的根拠に基づく具体的な温室効果ガス削減目標。
 ※CBT 質問書を通じて企業の気候変動への取り組みを評価・スコアリングする国際的なイニシアティブ。
 ※GHGプロトコル 自社のサプライチェーン全体の排出量を算定するための国際的な基準。

知る — GXの必要性を理解し、社内の推進体制を築く

主な業務

1. 全社リテラシーの向上
全社員(経営層含む)が共通言語としてGXの基礎知識を習得する。
2. 自社の役割と責任の明確化
自社のビジネスモデルにおけるGXの重要性と、各部署の役割・責任を定義・理解する。
3. 人材・スキルのギャップ分析
推進に必要な人材を特定し、不足しているスキルへの対策を検討・実施する。

関連する役割(人材)

1. 法規制・ルール把握 [GXストラテジスト: GX情報開示 GXコミュニケーター: GXマーケティング・営業]
法規制、業界ルール、国内外の先事例を把握する。
2. イニシアチブ理解 [GXマーケティング・営業, GXストラテジスト: GHG削減計画]
Scope 1~3の目標設定や、ISSB・SSBJ基準などの枠組みを理解する。
3. リスク・機会分析 [GXストラテジスト: GX事業企画・管理]
中長期的な事業リスクと、GXによる新たな機会を特定する。
4. 取引・入札対応 [GXストラテジスト: GX情報開示]
入札要件や取引条件に影響するGX関連情報を理解し、対応する。

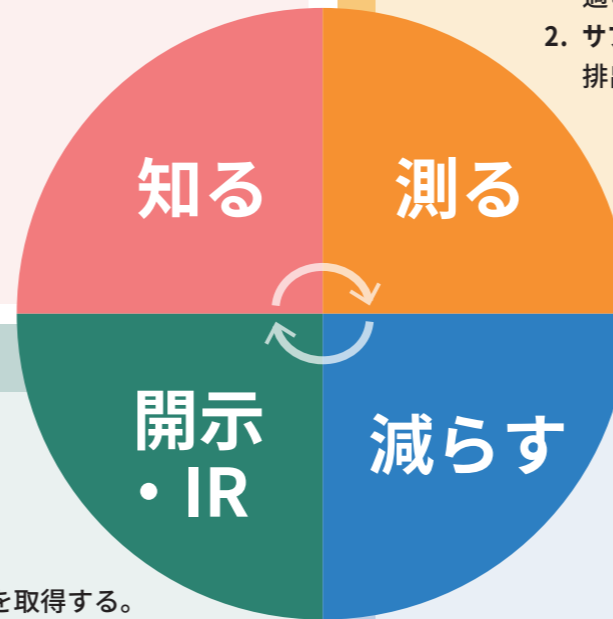
測る — 排出量を算定し、減らすための土台を作る

主な業務

1. 算定体制の構築とデータ収集
関連法規やGHGプロトコル等各種算定ガイドラインに基づいて電気・ガス使用量等の活動データを収集・整理し、算定・報告体制を整える。
2. GHG排出量の算定
自社の排出量を算定し、必要に応じて製品単位(CFP)や削減貢献量も算出する。
3. 排出要因の特定と分析
算定結果を拠点・工程・サプライヤー別に分析し、主要な排出源や要因を特定する。

関連する役割(人材)

1. 算定ロジックの構築 [GXアナリスト: GHG排出量算定]
適切な算定方法論(GHGプロトコル等)や算定範囲・精度を設定する。
2. サプライチェーン連携 [GXアナリスト: GHG排出量算定, GXコミュニケーター: GXマーケティング・営業]
排出プロセスを理解し、自社サービスが顧客に与える削減貢献量を定量化する。
4. 組織内外コミュニケーション [GXアナリスト: GHG排出量算定, GXコミュニケーター: GX調達]
関係部署や社外と連携し、算定体制の構築をリード・マネジメントする。
5. データ分析・報告 [GXアナリスト: GHG排出量分析]
排出要因を分析し、経営層及び社内外関係者へ報告する役割を担う。



開示・IR などその他 — 透明性高く開示し、企業価値を高める

主な業務

1. 情報開示の実施と透明化
ISSB・SSBJ基準等の枠組みに沿ってGX情報を特定・収集し、公表資料としてまとめる。
2. ステークホルダーとの対話
自社の取組について公表資料を用いて投資家や取引先等と対話・折衝する。
3. 信頼性の担保と更新
必要に応じて第三者保証(合理的保証・限定的保証)を取得する。

関連する役割(人材)

1. 開示フレームワーク対応 [GXストラテジスト: GX情報開示]
SSBJ、CDP等のガイドラインを理解し、適切な開示形式を整える。
2. 投資家・外部対話 [GXコミュニケーター: GXIR・広報]
エンゲージメントを推進し、GX戦略の評価向上に向けた対話をリードする。
3. 法規制・法令遵守 [GXコミュニケーター: GXIR・広報]
開示に関する関係法令やガイドラインを把握し、適正な報告を管理する。
4. ガバナンス・体制構築 [GXストラテジスト: GX情報開示]
開示情報の信頼性確保に資する社内体制を構築し、推進する役割を担う。

減らす — 削減計画を策定し、実行・改善を推進する

主な業務

1. 体制構築とKPI設定
組織横断的な体制を構築し、実行力を高めるための目標(KPI)を設定する。
2. 排出削減計画の策定と実施
経営方針に沿った具体的な削減施策を立案し、定期的なモニタリングを行う。
3. 外部資金・制度の活用
補助金制度や政府の支援策、SBT等の民間枠組みへの対応を検討・推進する。

関連する役割(人材)

1. 削減施策の立案・実行 [GXストラテジスト: GHG削減計画]
事業内容に応じた具体的な削減策を企画し、関係部署と連携して推進する。
2. 法令・枠組み対応 [GXストラテジスト: GHG削減計画, GXプロジェクトマネジャー: GXプロジェクトマネジメント]
省エネ法などの法令遵守や、SBT等の国際基準への適合を管理する。
3. 補助金・資金調達 [GXストラテジスト: GHG削減計画]
削減計画の実行に必要な補助金や、環境投資に関する情報を収集・活用する。
4. カーボンライシング活用 [GXコミュニケーター: GX調達]
インターナルカーボンライシングの設計・運用を理解し、調達方針へ反映させる。